

be 動詞

1. be 動詞ってなに？

英語の動詞には大きく分けて 2 種類あります。「動きを表す言葉（一般動詞）」と、今回学ぶ「be 動詞（ビーどうし）」です。

be 動詞の役割は、数学の「イコール（=）」と同じだと考えてください。

主語（A）と、その説明（B）をつなぐ接着剤の役割をします。

【基本公式】

A be B

（A = B です）

・ I am a student. （私 = 生徒）→ 私は生徒です。

・ She is happy. （彼女 = 幸せ）→ 彼女は幸せです。

※訳し方は「～です」のほかに、「(場所に) いる・ある」となることもあります。

2. 使い分けのルール（3 つの変身）

be 動詞は、主語（誰が）によって「am」「are」「is」の 3 つの形に変身します。元の名前は「be」ですが、文の中ではこの 3 つのどれかを使います。

be 動詞	使う相手（主語）	覚え方のコツ
am	I（私）だけ	「私は」専用の特別席！
are	You（あなた） There（～がある） 複数（みんな）	目の前の相手か、2 人以上のとき
is	それ以外の単数 (He, She, This, there, Ken など)	私でもあなたでもない、1 人（1 つ）のとき

【練習】どの be 動詞が入る？

・ I [am] Ken. （私はケンです）

・ You [are] a teacher. （あなたは先生です）

・ This [is] a pen. （これはペンです）

3. 短縮形（縮約形）

会話では、主語と be 動詞をくっつけて短く言うことがよくあります。

- ・ I am → I'm （アイム）
- ・ You are → You're （ユア）
- ・ He is → He's （ヒーズ）
- ・ She is → She's （シーズ）

4. 否定文（～ではありません）

「イコールじゃない（≠）」と言いたいときは、be 動詞の後ろに not を置きます。

【否定の公式】

主語 + be 動詞 + not ～.

- ・ I am not a student. （私は生徒ではありません）
- ・ He is not my brother. （彼は私の兄ではありません）

★短縮形に注意！

- ・ is not → isn't
- ・ are not → aren't

※ am not の短縮形 (amn't) はないので、I'm not を使います。

5. 疑問文（～ですか？）

質問をするときは、be 動詞を主語の前に出します。文の最後には「？」をつけます。

【疑問の公式】

Be 動詞 + 主語 ～ ?

- ・ Are you from Japan? （あなたは日本出身ですか？）
 - Yes, I am. / No, I am not.
- ・ Is this your bag? （これはあなたのかばんですか？）
 - Yes, it is. / No, it is not (isn't).

6. 【重要表現】 There is / There are（～があります）

「～は…です（イコール）」ではなく、「(場所に) ～があります」「～がいます」と言いたいときに使います。

【存在の公式】 There is (are) + (人・モノ) ～.

この文では、be 動詞の後ろに来る言葉が「単数」か「複数」かで使い分けます。

① ひとつ（ひとり）のとき → There is

- ・ There is a pen on the desk. （机の上にペンが一本あります）
- ・ There is a cat under the table. （テーブルの下に猫が一匹います）

② ふたつ（ふたり）以上のとき → There are

- ・ There are two pens on the desk. （机の上にペンが二本あります）
- ・ There are many students in the park. （公園にたくさんの生徒がいます）

★ポイント 日本語につられて「There is two pens...」と言わないように注意！ 「後ろが複数なら are」と覚えましょう。